東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2022
情報交流会 ６月１９日 東京都立 一橋高等学校 資料2-1

東京都立 一橋高校 の取り組み —概要編—

小川郁子
坂本めぐみ

目次

1. 一橋高校の特徴と生徒の現状
2. 校内における外国につながる生徒支援の全体像
3. 取り出し授業について…別スライド
　国語、社会

１－１　都立一橋高校について

１．普通科、単位制、三部制（午前部,午後部,夜間部）定時制高校

①年次制、学級担任制

③必修科目は自部、自由選択科目を他部の時間に受講して３卒可

２．都心の千代田区,交通至便：都内全域から通学

３．入試制度：外国人特別枠指定校ではない

①三教科入試を一般生とともに受検

②特別措置を申請できる

・外国籍来日3年まで：ルビ,辞書持込+時間延長(10分)(国語以外)

・来日/帰国６年まで：ルビ振り

Ⅰ－２　本校に在籍する外国につながる生徒の状況

１．外国につながる生徒：全校の約2割程度

　取り出し生徒（来日５年程度まで）：全校の約1割、50名前後

２．つながる国：中国、フィリピン、ネパール、タイ、その他多様

３．生徒の状況

①在京外国人入試の要件（来日３年まで,外国籍,日/英作文.面接）

　から外れる生徒＝滞日期間が短い,英語が堪能ではない,日本国籍

②千葉・埼玉の入試が困難＝バイト先を東京に決めて定時制受検

③ダイレクト受検、夜間中学出身が多い=年齢が高い

1－3　本校の外国につながる生徒の日本語力の特徴

1．日本語（ほぼ）ゼロの生徒が毎年いる

・取り出し授業でも対応困難

・学校側の受け止め…

2．ダイレクト受検：日本語ができないだけ、母国でしっかり学び、学力が高い生徒→やがて学習意欲が喪失しがち

3．中学出身：都内区市の日本語指導体制のばらつき・格差の反映

・なんちゃって日本語、自己流文字、漢字力ゼロ、バイト用日本語

・中学校の教科学習内容がほとんど身についていない

4．幼少時来日・日本生まれ：日本語、母語、教科全部困難

1-4　本校の外国につながる生徒の高校生活の状況

1．アルバイトと家業の負担：自分の進学資金、家族の生活費
　28時間max、最低賃金、差別、勉強時間と習慣が作れない
2．登校から始まる生活、ネットで母国と接続、日本人と関わり希薄
3．いじめは少なく、ほとんど自学せずおだやかな学校生活
4．選択授業はできるものだけ(英語or数学,体育,芸術実技系ばかり)
5．考査対策に依存した学習→主体的に学ぶ姿勢を失っていく
6．卒業後の生活拠点：日本/母国/別の国、で揺れる（入試/ビザ）
7．進学希望多いが、評定平均が低い、学費支弁困難、奨学金なし

２－１　一橋高校の支援体制：校内組織

１．校内組織：多文化共生日本語支援委員会

①構成：副校長、該当分掌、各年次、該当教科（国.社.英）

②不定期：必要に応じ会議を開く

協議事項・生徒の取り出し/在籍戻し、確認

・日本語補習・進路支援補習実施計画の検討

・新入生ガイダンスにおける、特別面接の準備

・受講ガイダンス（翌年度の時間割作成）の支援体制

２．外部人材予算（日本語指導予算）・通訳依頼の管理：副校長

３．部活動：多言語交流部ONE WORLD（NPOｶﾀﾘﾊﾞの協力）

２-２　設置科目・カリキュラム：必履修科目

１．取り出し授業

1年（新カリ）現代の国語２単位（言語文化なし）、歴史総合２

2年（旧カリ）国語総合２、世界史A２　3年（旧カリ）日本史A２

・国語:部ごと習熟度別:3クラス４展開+取り出し(8名程度)全12時間

・社会：学級ごと（1学級～4名程度ずつまとめて在籍）全 26時間

・理科・保健・家庭科など必要だが実施していない。

２．取り出し授業時数は、学校の全体授業実施時数に算入しない

＝専任教員配置人数に計算されない（専任が持つこともある）

→授業担当：東京都講師（担当教科の免許）

取り出し授業の課題

１．担当できる講師が探せない

・免許：教科免許が必要、日本語指導がわかる人はまれ

・採用時期：新年度取り出し時間割が決まるのが３月末

→ほとんどの東京都講師は、次年度契約が終わっている

・人材探し→ほとんど人づて

２．単年度採用の講師だけが取り出し生徒を担当し、

専任教員との情報共有、指導ノウハウの伝達、継承が困難。

３．講師には都教委の教員研修の機会がない

２-３　設置科目・カリキュラム：自由選択科目

１．学校裁量自由選択科目、日本語（新カリ移行中の特別体制）

1年（英語科）：日本語初歩1(午後部の時間).2(夜間部の時間)

2年（国語科）：日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ(夜間部の時間)

・生徒各自が受講可能な時間で選ぶ。レベル別ではない

・1年度に1科目２単位、2年間で４単位まで受講可能

２．指導者：特別専門講師（都講師と兼任不可）、教員免許不要

・専任教員とＴＴ：専任が生徒の出欠管理・生徒指導、考査・評定管理。講師は授業のみ担当

３．高校の自由選択科目の実施・運営規定上で行う。

２-４　日本語補習（外部人材予算活用）

１．単位にならない補習：授業のない時間、昼/夕休み、夏休み

２．予算：外部人材事業（都教委）時給2600円、資格不問

３.活用実績（2015～2021,年度によりいろいろ）2022年度実施未定

①特に日本語力が低い生徒に、個別日本語指導を行う。

②生徒の要望を受けて日本語クラスを実施する。

③昼/夕休みに毎日、各自に必要な学習支援（教科,日本語,JLPT等）

④卒業年次生進路支援：履歴書、面接、志望理由書、作文、小論文

⑤3レベルの日本語クラスを用意し、生徒が選択して自由参加

⑥夏休み集中日本語補習：JSL（数学A,英語,保健）、レベル別日本語